

Q 「道の駅国見あつかしの郷」と商店街の連携による活性化に向けての施策は

A 道の駅と商店街が双方向に来場者の回遊を図る取り組みを行う



松浦和子議員

街の日」を設置するなどの提案をしている。道の駅の多くの来場者を商店街へ誘導する、もしくは商工会の会員が道の駅で販売するなど双方向で連携し町全体の活性化を図ってきたい。

町のシンボルとしての阿津賀志山の整備計画は

問

町のシンボルの阿津賀志山の整備を町民は強く望んでいる。平成28年3月の「第5次国見町振興計画後期計画」の策定

の際に、有識者からの観光づくりに関する意見、提言が5点あり、オリジナルの取り組みが必要とあったが、具体的な取り組みを伺う。

まちづくり交流課長

提言の1点目は「国

見にしかない地域資源を最大限生かすこと」であり、歴史まちづくりの取り組みとして、阿津賀志山防塁や奥山家住宅、中尊寺ハスなど国見のたからを生かした観光力アップを進めている。2点目は、「食べる、買う、遊ぶ

といった体験型のサービスを作ること」であり、女性応援団ツアーやくくにみしゅらんモニタツアーを行い、好評を得ている。3点目は、「地域が儲かるビジネスモデルを作ること」で、民間の取り組みになるが、果物の収穫体験など地域を巻き

込んだ有料の体験ツアーが考えられる。4点目は、「他人に伝えたくなる感動や意外性を作って話題性を高めること」であり、観光ガイドの育成に取り組んでいる。5点目は、「人材育成として交流

と連携で持続的戦略がとれる地域のプロデューサーを育てること」であり、町の特徴を生かした着地型観光を推進するために必要な人材であり、町内でも民間で取り組み動きがあるので見守りたい。



整備が望まれる阿津賀志山

問 歴史まちづくりと言っても、阿津賀志山の山頂の整備は置き去りになっていく。今後の対応を伺う。

町長

十分理解している。ソフト面

では、「道の駅国見あつかしの郷」や「あつかし歴史館」などの名称で親しみを持たれてきた。ハード面の整備として、道路やトイレ、展望台などが考えられるが、多額の費用がかかると考えられるため今すぐというのは難しい。ただ、国や県の補助制度の中で何ができるか、調べながらチャレンジしており、今回ハス池の歴史公園整備の補助内定を受けたところである。今後長い期間になると思うが、前向きに取り組んでいきたい。

問

「道の駅国見あつかしの郷」オープン前に、まちづくりの拠点として、町の活性化を図るという大きなテーマがあった。活性化に向けての施策を伺う。

町長

商工会の会員の中には、道の駅の出荷組合員となり

販売活動を積極的に展開している方もいる。また、町では、道の駅の来場者が商店街などを周遊してもらった

め、「国見町周遊マップ」を作成し無料配布している。さらに、商

工会の方には道の駅のエリアで「商店街のチラシ」の配布や「商店

Q くにも農業ビジネス訓練所の運営は

独自性のある事業とすべきでは

A 農業の活性化のための施設であり、研修内容と効果を充実させることが重要である

問

くにも農業ビジネス訓練所関係予算は今後特別会計に計上し、経営分析が判断できるようにすべきと考えるが、所見を伺いたい。

くにも農業ビジネス訓練所は、予算とは区分しているが、特別会計として設置することが適当かどうかについては、今後の事業の運営状況を踏まえて検討したい。利益を追求する施設ではないが、「野菜の栽培施設」として独立採算的な運営の可能性についての経営分析を行うこ

とは必要であると考え

問

くにも農業ビジネス訓練所の短期研修には農業経営研修があり、①経営記帳②農業簿記による収入と支出、資産と負債の把握③経営分析があり、農業者が農業簿記を実践し青色申告者となる研修内容とすべきと考えるが、いかがか。

問

研修を受けて将来「稼げる農業」を目指し、定住までを図っていくためには、各農産物の原価計算と損益分岐点を見出すことは不可欠と考えるが、町の考えは。

問

研修を受けて将来「稼げる農業」を目指し、定住までを図っていくためには、各農産物の原価計算と損益分岐点を見出すことは不可欠と考えるが、町の考えは。

問

くにも農業ビジネス訓練所は、研修施設であり、経営の健全性を「見える化」させるべきと考える。具体的には、「くにも農業ビジネス訓練所年報(仮称)」を発行し、①事業概要②各農産物の原価③短・長期計画④町内農業情勢などを示し、町内農業経営の指針となるように、独自性の強い事業にすべきと考えるが、いかがか。

課長

研修の内容容として、初歩的な帳簿の記帳から経営分析まで4回にわたり開催することとしている。農業簿記に取り組むというこ

課長

育成や園芸作物の振興を図り、「稼げる農業」のビジネスモデルを構築すること、新規就農者などの定住化も目指していく。農産物の原価計算と損益分岐点

町長

くにも農業ビジネス訓練所は町の基幹産業である農業の活性化を図るため、県内では2番目に先駆的な地方創生事業の一環として設置した



村上 一議員



親子体験研修のようす

ものである。実際に農業経営を行う上では、野菜の売り上げや栽培に係る費用を把握することは重要なことである。訓練所の主な目的は、国見町の農業の活性化を図ることであり、研修内容やその効果が最も重要な課題である。ご提案いただいた「町内農業経営の指針となるような年報」の発行については、今年度の事業実績や訓練所の事業が独自性のある事業であることなども踏まえ、今後検討していきたい。